

お盆には各家で特別に精霊棚を作り御先祖の供養をなさいます。やがて往く身になれば尊い行事で御座います。人間自分のことが、まだ出来れば生き体であり、やがて目に光を失い、耳に音を失い、口に言葉を失う様になり、自分一人で自分のことが出来なくなれば死に体と言っても過言ではないと思います。死に体と言っても生きています訳ですから人間としての尊厳は維持していきたいものです。我々が生きて往くと言う事はゴミを出し続けていくことです。ゴミの再生が出来なくなればゴミに飲み込まれていく事になります。我々人間が造った物はやがてゴミになつてしまふ事を忘れてはいけません。例えば原発で出るゴミのように、ゴミとして残り続けるものは造つてもいけないし、使つてもいけません。我々は時々利便性を求めるべきではありません。如何にしてゴミを少なくしていけるのか将来を見据えて行動しなくてははいけません。佛の教えの如く身体も心も清く成るよう努めるのが皆なの幸せ、環境の保全にもつながっていくのではないのでしょうか。小都市は小都市なりに大都市は大都市なりに将来に渡つて人間が人間らしく生活できるような環境の保全に尽力すべきではないでしょうか。

前にもお話ししましたが我々の肉体からは糞がでます。例えば目からは目糞・鼻から鼻糞・耳から耳糞・口から歯糞と言つたものです。これらは自分で簡単に処理できますから問題はないのですが、問題になるのは三業が作り出す不徳です。三業とは身・口・意(心)の三つです。人間の行動は意によります。密蔵院發露懺悔文中に「無始より来た妄想にまどわされて衆罪を造る身・口・意の業常に顛倒して誤つて無量不善の業を犯す」とあり、例題によつて悪事の説明がなされています。遊び呆けて無駄に年を送くつたり、善き友と交わらず悪いことをしたり、自我自賛し名声を求めんが為に他を誘つたり、善き人を見ては嫉妬し、地位の低い人を見て侮る、等々の解説がしてあります。「三業が引き起こす人生模様、人間にはご存知のように善の心もあれば、悪の心も潜んで

いるのです。お互いの葛藤の中でより良き人生を送らねばなりません。古代より名誉財産がらみの権力闘争に明け暮れ戦国の世が終わつても、他国と戦争を繰り返して、最後は敗戦の憂き目を見る事になった訳です。何が災いしたとしても人間が人間を標的とする戦は慎まなくてははいけません。餓鬼畜生の行動をすれば自からの破滅を呼び地獄の苦しみを味わうことに成りましょう。国々との関係も互いに理性が保てるのか、理性を失つてしまうのか、宗教が根底にあつても人種間の溝が無くなる訳でもなく、それぞれの国家がぶつかり合つてしまうのです。愛を叫んでも潤いが無い渴愛はもはや力を発揮することはできません。イジメの問題もイジメる側とイジメられる側の双方がイジメて

る、イジメられると相互理解していないと解決は難しくなります。人間生きるにゴミを出し、

釈迦の説法智慧を出す」です。三人寄れば文殊の智慧とか申します。皆共に智慧を出し合ひましょう。